

2021 全国安全対策委員長会議議事録

日時:2020 年 11 月 1 日(日)13:00～17:00

場所:オンライン(Zoom)

参加者(*を除いて 21):加盟団体安全対策委員長(または代理)

(公財)北海道スキー連盟 安全対策部部長 後藤 博昭

(一財)青森県スキー連盟 専門委員 *須藤 光春, 安全対策委員長 竹原 伸郎

(一財)岩手県スキー連盟 安全対策委員長 高畑 伸也

宮城県スキー連盟 宮城県安全対策委員長 三神 良太

秋田県スキー連盟 安全対策部長 高橋 一彰

山形県スキー連盟 安全対策部長 *鈴木 恵太

福島県スキー連盟 安全対策部長 *遠藤 秀明

茨城県スキー連盟 安全対策部長 高瀬 勝則

栃木県スキー連盟 安全対策部長 *新井 和夫

群馬県スキー連盟 安全対策委員長 中澤 卓, 安全対策部顧問 森山 直温

埼玉県スキー連盟 教育本部総務部安全対策委員会委員長 谷島 稔

千葉県スキー連盟 千葉県スキー連盟教育部安全対策委員 早川 英明

(一財)東京都スキー連盟 東京都スキー連盟安全対策部部長 清水 哲治, 安全対策部副部長 酒井 潤

(公財)神奈川県スキー連盟 安全対策委員会委員長 *上杉 一哲

NPO 法人山梨県スキー連盟 スキー学校委員会副委員長(安全対策委員代行) 立木 翔, 教育本部事務局
長望月 剛

(公財)長野県スキー連盟 安全対策部委員長 *新村 昌宏

(公財)新潟県スキー連盟 安全対策委員長 *川内 慎吾

富山県スキー連盟 副部長 奥田 純

石川県スキー連盟 安全対策本部長 吉本 幸司

(公社)愛知県スキー連盟 安全対策部長 福岡 優子

岐阜県スキー連盟 安全対策部長 内方 陽一

滋賀県スキー連盟 安全対策部長 長尾 卓哉

京都府スキー連盟 教育部長 北垣 寛

兵庫県スキー連盟 安全対策専門委員 *米田 幸雄

広島県スキー連盟 教育本部安全対策委員長 平川 朝水

オブザーバー(1):日本スキーパトロール協議会会長 遠藤 正

運営役員(14):

担当理事:富樫泰一

アドバイザー:有元 崇浩、委員長:上杉 一哲、副委員長:川内 慎吾

委員:秋元 洋一, 影山 広美, 須藤 光春, 鈴木 恵太, 遠藤 秀明, 新井 和夫, 新村 昌宏, 中島 浩二,
米田 幸雄

総務委員:佐藤 博一

司会:川内 慎吾

次第

1. 出席者紹介

担当理事・・・富樫さん

安全対策委員長・・・上杉さん

アドバイザー、SAJ 障害部国際情報委員会(学識経験者) 有元さん

オブザーバー、全国安全対策協議会会長 遠藤さん

北海道・・・秋元さん・影山さん・後藤さん 青森・・・須藤・竹原さん 岩手・・・高畑さん 宮城・・・三神さん

秋田・・・高橋さん 山形・・・鈴木さん 福島・・・遠藤さん 茨城・・・高瀬さん 栃木・・・新井さん

群馬・・・中沢さん 埼玉・・・谷島 千葉・・・早川 欠 東京・・・清水さん、酒井さん 神奈川・・・上杉さん

山梨・・・立木さん、望月さん 長野・・・新村さん 新潟・・・川内さん 富山・・・奥田さん 愛知・・・福岡さん

岐阜・・・内方さん 滋賀・・・長尾 京都・・・北垣さん 兵庫・・・米田さん 広島・・・平川さん

SAJ 事務局・・・芹澤さん、古谷さん 石川・・・吉本さん

2. 資料確認

3. 開会宣言 上杉 一哲 安全対策委員長

【上杉委員長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

この度、教育本部安全対策パトロール部、安全対策委員会、委員長を拝命しました上杉と申します。よろしくお願い致します。

それでは只今より、全国安全対策委員長会議の開会をここに宣言致します。

4. 担当理事あいさつ 富樫泰一 教育本部理事

【富樫理事】

本日は大変お忙しい中、全国安全対策委員長会議にご出席いただきありがとうございます。

私この度、北関東ブロックの推薦を受けて SAJ 理事に就任致しました、茨城県スキー連盟所属の富樫と申します。昨年までは SAJ 安全対策委員会、副委員長として本日の運営役員と同様に安全対策部で仕事をさせていただいておりました。この度、担当理事と立場が変わりましたが、安全なスノースポーツの普及、発展に全力を注ぐ所存でございますので変わらず、ご支援、ご指導を宜しくお願い致します。

さてこの会議はシーズン初めに各加盟団体の安全対策委員長が一堂に会しスノースポーツの安全対策や、スキー場の安全管理等について情報交換するとともに、SAJ 事業の円滑な運営の為、各種事業に対するご理解と、ご協力を得る大変貴重な場でもあります。

昨年度は新装となった日本オリンピックスクエアで開催しましたが、教育本部長会議と併催の為、各委員長の意見をうかがう時間が全く取れませんでした。そこで今年度は、昨年度の反省を踏まえてオンラインとはなりましたが単独での委員長会議に戻すことが出来ました。

この会議は各加盟団体の安全対策委員長様はじめ、3,000名を超えるスキーパトロール有資格者、ドクターパト

ロール有資格者で構成されるスキーパトロール協議会会長の遠藤 正さん、またアドバイザーとしてSAJ国際情報委員会の有元 崇浩さんにご出席いただいております。

さて SAJ 教育本部は昨シーズンよりオフィシャルブックの巻頭に安全なスノースポーツ指導者の為になり安全なスノースポーツ指導の普及の為に一層、協力に取り組む姿勢を明らかにしました。それを今シーズンも受け継ぐことになりました。皆様には常日頃から、様々な面でご支援いただいておりますが、with コロナ時代にあって各種事業の円滑運営が出来るよう、より一層のご協力をお願いし、理事として開会のあいさつとします。

宜しくお願いします。

5. 審議事項

(1)2021SAJ 教育本部安全対策パトロール部事業要項【OB2021 pp.124-133】

【上杉委員長】

まず昨シーズンは新型コロナウイルス感染症により、様々な事業が中止となる中、事業運営に関しましてご配慮、並びご協力を頂きまして真にありがとうございました。

ここで2021年 SAJ 教育本部安全対策パトロール部の事業要項資料につきましては、事業要項、もしくはオフィシャルブックの124頁をご覧ください。

教育部事業全般について説明します。今年度も各事業の申し込みについては、しくみネットを活用することになっています。

検定会、合格後の処理について、検定会で合格された方には公認登録料の支払いがあります。公認料、登録料のお支払い完了をもって正式に資格の取得となります事を受験生の方々に皆様からご理解頂くように連絡をお願いします。また、宿泊が会期中、またはその前後において、基本的には各自で手配することとなりました。

希望者があれば現地連絡先で宿舎を紹介いたします。紹介後、各自で申し込みをしていただく等でコロナの感染防止対策に一環と言う事をご理解いただくように受験生および受講生にもご連絡の一報をおねがいします。

次に安全対策事業要項としまして、まず一つ目は今回行われている全国安全対策委員会議の昨年度は加盟団体部長会議と合わせて開催されました。本年度はコロナの関係で単独会議として、更にオンライン会議をして開催いたしました。次年度におきましても同じ時期、単独での開催をしたいと予定しています。オンライン会議につきましては、コロナ状況をかがみ見ながら決定したい。その際にはまた、ご出席、ご協力の方をお願いしたいと思います。

中央研修会につきましては今月 19 日 (11/19)から前年度と同様、北海道で開催予定。技術員研修会は、本来役員改正期にパトロール技術員相互の交流が図れるよう、本州の技術員は一会場開催でしたが、専門委員、技術員の任期が一年延長となった為、従来の各ブロック開催と致しました。詳細については要項等をご覧になれば結構だと思います。

公認スキーパトロールについては、昨年、新型コロナウイルス感染症の関係で2会場とも中止になりました。本年度におきましては検定会場は昨年と同じく2会場で前年度と同会場にて開催となっています。

尚、養成講習終了証、終了報告書は有効期限が3年間になっていますが2020年度終了者に関しては有効期限を4年間という形に伸ばしています。申込時に、2020年特別措置のチケットで申し込んでいただき、加盟団体に置かれましては2020年特別措置の対象であることを確認し承認をお願いしたい。併せて受験資格の内、赤十字救急員認定証の提示につきまして、新型コロナウイルス感染拡大に伴う特例措置がある事をオフィシャルブック受験者の為にと安全対策パトロール部のホームページにて確認をお願いしたい。

今年度、全国パトロール総会を開催いたします。会期、並びに会場は公認スキーパトロール研修会、東日本会場と併催で山形県蔵王温泉スキー場で行います。各加盟団体に置かれましては、多くの参加を促すようお願いいたします。同じく公認スキーパトロール研修会西日本会場は兵庫県ハチ高原スキー場にて開催いたします。以上

(2)2021SAJ 教育本部安全対策パトロール部研修テーマ【OB2021 pp.044-055, DVD】

【上杉委員長】

研修課題の内容は新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業中止やスキー場等の営業中止により雪上活動がままならない状況となっていました。次年度においても終息の見込みが立っていない状況ですが、事業の開催に向けて安全対策、事故防止、パトロール技術再確認として内容を継続しながら、課題として上げましたのでご理解いただきたいと思います。

指導者が心がける安全対策の啓蒙やスキーパトロールの技術、インバウンドの対応などを意識していただきたいと思います。

(3)2021SAJ 教育本部「資格検定受検者のために」【受検者 2021 pp.112-118, DVD】

【上杉委員長】

03同様、前年度の内容を継続し、同内容で行っています。

ただここでも新型コロナウイルス感染拡大に伴う特例措置について記載されている。

受験者の受験条件が今までは日本赤十字の救急員の資格をもって受験の資格となっていますが、日本赤十字の方は全国的に救急員の養成講習の開催がすべて中止となっている状況の中、これをふまえて新規で公認パトロールを受験したい人の為に特例措置と致しまして、今現在の段階で日赤の救急員の資格を持たない方も受験できるという措置をしました。

ただ、翌年の5月31日までに救急員の認定証を取得していただきSAJの方に加盟団体を通して届けてもらうという形をとらせていただきます。合格後もそちらがついてくるので、新規の受験者に連絡し周知していただきたい。ただ、すでに救急員の資格を持っている方には、この件は関係ありません。従来通り認定証を提示していただき受験していただく。

資格試験の検定についてはコロナの感染拡大に伴い感染対策を乗じる為に通常とは変更する部分も出てくる。

具体的には、3蜜防止と言う事を考慮した対策を練って、検定会、養成講習にあたっていただきたい。

検定会はSAJの方で感染対策予防をとった対策と、種目を吟味して実施するようにする。

種目自体は規定通りとなっているので間違いないようお願いしたい。

室内競技のロープ三角巾は3蜜の状況を防止しなければならないという措置を取らなければならないので、対策を練りながら種目をこなして行きたく、この辺は受験者に皆様から周知してほしい。

傾向として、こんなことをやったり、こんなことを踏まえた中で救急法、三角巾、ロープをやると言う事。

救急法については11月末日をめどに安全対策部のホームページにて、どのような内容なのか、動画をアップします。そこからYou Tubeとリンク出来るようにしたいと思っているので、そこを見ながら受験者に教えていただいたり、受験者が直接見て勉強して頂く事が必要になると思います。

これは従来、日赤救急員の認定証を持っている方も同じく見ていただく形となりますので、ご理解していただきたい。

この様な形で少し変更すると言う事をしながらやっているの、これはコロナ感染の予防の対策と言う事で理解して頂く事がひとつとなります。受験生にはそんなところも周知していただく為に、委員長会議でお願いする次第です。

以上

【富樫理事】

委員長の説明の中で出版物の構成漏れがあったのでここに発表。山溪の千葉さんには修正する様に伝えましたが、残念ながら、構成漏れがありました。

有効期限は3ヶ年とする。ただし→またに変更。

p113一番下の受講年度と、受講期限の表

2018年に規約改正して従来3年に一度→2年に一度となりました。なので2017年度に受講した人は3年有効なので2020年。2018年に受講した人は2年になるので2020年の表の上から2020、2020、2021、2022になります。

2020年が2つあります。構成漏れがありましたので訂正をお願いします。

受験者への直接の影響はないと思いますがよろしくお願い致します。

【東京、清水】

頂いていたDETAでは直っていますが、出版物の紙の刷り上がったものが間違っているということでしょうか。

【富樫】

はい、そうです。何故かしらなおっていませんでした。

【北海道 後藤】

検定会について、検定会で合格証の交付はいつも合格されている方に渡していると思いますが、今回救急法が出来ないと言う事で、どう言った段階で郵送されるとか、その辺の進め方についてお聞きたい。

【上杉委員長】

先に認定料、登録料、後日合格者対象でSAJの方からメールによって送られます。その後は、案として認定証ではなくて、合格証として合格したことを賞します。登録料を支払われた段階で、公認される形に。

【SAJ 芹澤】

昨年まで検定会で渡していたパトロール公認証が今年度より新しいものになります。それは降雨認証ではなく、合格証です。渡すタイミングは検定会で合格時にわたします。最終的に合格した年度した年度に公認料がしくみネットにて支払われない時は合格しても公認されません。それを待って次年度に前年度の合格証を渡すことは考えていない。

【北海道 後藤】

救急法をもって魚汁人もとっていない人も、しくみネットで支払った段階で登録といった形でよろしいですか。

【芹澤】

はい、今シーズンしくみネットでの支払い期限は2021年7月31日の予定

その日までに支払われなければ、資格は不輸されない。という形で理解していただきたい。

(4) 2021 加盟団体主管パトロール研修会一覧【配布資料 02】

【上杉委員長】

手元の資料No.1～16まで委員長会議、現時点でのSAJJに方に加盟団体より申し込んである団体数になる。

まだ入っていない団体があるかも知れません。

それはまた事務局とそうだんして、申し込み期日は過ぎていますが新たに相談して頂けたらとおもいます。

【SAJ 芹澤】

事務局で把握している最新の物を共有させてもらいたい。

16 件から多少増えている。直前に忠誠があった団体がある。最終の資料では 19 団体になっています。

【栃木 新井】

研修会を研修内容として、今シーズンはコロナ渦と言う事で、皆さん 3 蜜にならないいろいろなアイデアをおもちだとおもいますが栃木県はまだ研修内容については正直白紙状態なので、出来ればこう言う事をコロナ渦なので出来ればこういうのが良いのではないかとアイデアを全国各県連のこういうことをコロナ渦でやるというものを教えていただきたい。

【富樫理事】

皆さんに聞く前に SAJ として今年度に限り理論研修に関しては全て E ラーニングで対応するという姿勢なんです。E ラーニングに必要な映像 SAJ の公式ホームページで公開されたので、是非、そのことを皆さんに周知していただきたいと思います。

【上杉委員長】

スキー、スノーボード、安全対策の指導者研修会の理論につきましては、オフィシャルブックの DVD の中、あるいは安全対策部のホームページにもリンクを貼って、皆さんが見れるようになっています。

その辺を見てもらって理論の方を片付けていただき、実技の方をスムーズに加盟団体の地域の実情に合った、かつ特色のある研修会を実施していただき、そういった内容を盛り込んで実施していただきたい。

コロナ対策は研修会実施に対しては SAJ ガイドラインを作成中です。実施先の自治体や体協やスポーツ協会、スキー連盟、スキー場のガイドラインが優先してきます。その辺をよく理解していただき、加盟団体として研修会のカリキュラム、講習会のカリキュラムや仕組みを作っていただけたらありがたいと思います。

コロナ感染状況は一律ではない為、東京は所見では増えています、長野や青森等で感染率の少ない所でしたら、どういった体制が取れるのかと言う事を地元で反映していただき、研修会の内容を作っていただければ。

また首都圏の人達につきましたら、長野、新潟等に出ていくことが多いと思います。雪なし県としてはそう言ったところを考えながら受験生を連れていきますので、その際は宜しく御対応の方をお願い致します。

【北海道、後藤】

救急員の資格について日赤に聞いたところ年内の講習は出来ないとのこと。5 月 31 日の期日までに出来なかった際、ご配慮いただけるのでしょうか。

【上杉委員長】

5 月末までには救急員の資格を取得し、出していただくと言う事になっています。ただこの様なコロナの状況下でいろいろな所で少しずつ緩和されてきてはいます。例えば神奈川県では基礎講習ならしても良いと言う話も出ています。この先、もっと酷くなってきたら検定自体も中止になる可能性もあります。だからそう言った所は状況をよく考えながら進めて行きたいと思っているので、一概にこうだと言う事は出来ませんが、今のところは規定に準じてやっていただきたいと思います。

【山形、鈴木】

検定会、研修会の話が出ていますが、例えば研修会をuchiの方、山形で予定していますが、もしその中で予防をしていたものの、クラスターが起きた際、いろいろな場所や場面でその様な心配が増えた場合に責任問題をどの

様に予想されているのか。もし起きた場合の参考にしたいのですが。

【富樫理事】

答えようがないですね。SAJとして全責任をとられるのか、その辺がどうなのか、私も新米理事なのでその辺の考え方が良くわからないのですが。

【SAJ 芹澤】

私もその辺のことは聞いていないので、答えられません。

【上杉委員長】

スキーに限らないのですが、スポーツ施設、野球、サッカーにしても色々なイベントでクラスターが出たりする状態になっています。

責任という部分につきましてはどのような対策をとっていたのかと言う事が出てきます。そして地元の保健所を通じて色々な対策が練られます。あと市町村の部分ですねそういった所があるので鈴木さんが言われたように、どこが責任をとるのかと言った時に、例えば感染対策をしていなくて起きてしまった場合と、しっかりしていて起きた場合とでは変わってきます。その辺は起きた際に保健所等、また市町村あと、県の判断が出てくると思いますので我々とする、感染対策をしっかりやっていると言う事だけを、しっかりやっていただける事によって、リスクは少なくなると思います。

【山形、鈴木】

それ以外で例えば受講生が持っていてうつったとか、講師が持ってきて写したりとか、そのような色々な場面があると思いますがそのような場面を予想しておかないとまずいのかなと思います。その辺りの予想というかその辺りの予想というか準備してもらって、我々の方に教えてもらわないと。

これから山形では県内の研修会も行い、3月には蔵王で行う予定です。その辺までどの様にするのかと言う事の情報を沢山欲しいので宜しくお願い致します。

【上杉、委員長】

加盟団体独自のガイドラインをどこも作っているとおもいます。研修会や養成講習をやるとき、県連等のホームページでガイドラインを出している所が多いので県連や加盟団体の役員も受講生もそれを見てお互いの自己管理が重要になってくる。

もしやるのであれば、2週間前から体温を測ってチェックリストを作ってそれを提出して講習会にのぞむという形がベストかとおもいますが、なかなかそういう事もままならない状況があれば、当日の検温やチェックリストをしっかりとって、追跡浄化が出来るような形をとるのも一つのやりくりだとおもっています。

【山形、鈴木】

その件で、山形の方でも講習会が始まっているので、日赤の方のチェックリストを参考にし、それに書き込みをしてはいますけれど、もし何かがあった際、こちらの方に問い合わせが来るとしますので、予防だけではなくそちらの方の心配もある程度しておかないといけないと思います。

出来ればSAJの方でも対応というか、どの様にするのか、参考に出来るようなものがあればと思っています。

【上杉委員長】

そうですね。それはSAJというよりも主催団体、加盟団体についてもコロナが出た時のフローチャートを作っていないかはいけないと思います。

発生した場合どのような経路をたどっていくのか。その人に家族がいたり、その人がいろいろな所で色々な人にウイルスをまく場合もありますので、その感染防止の中に感染した場合の連絡事項とかフローチャートの様な形で作

らなければいけないと思います。

それは一般の民間の方とかホテルなどいろいろな所で作られていると思われますので、そんなところを参考にしながら、更にその独自の部分がありますので作っていく必要がある。

【山形、鈴木】

是非、情報があつたらよろしくお願いします。

【上杉委員長】

了解しました。情報がありましたら提出したいと思います。

(5) スキーパトロール検定に係る特例措置について【OB2021 pp.129 】

【上杉委員長】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い日赤(救急員の資格取得)が現状中止になっています。

救急員資格取得が困難という実情を考慮しました。

措置としてこういった特例措置を行います。

(プリント参照)

これをやらないからと言って、受験出来ているんだけど受験者にとっては質を落としてはいけないと言う事が我々の使命だと思っています。

各加盟団体で救急員の資格が取れていない人も、ほかの取れわれている人と同様に出来るように質を維持することが重要なので、そこを理解し養成講習および検定会に望んで欲しい。

◇検定種目の説明

三角巾を安全対策の教本の DVD にやり方が全て網羅されたものが出ています。それを救急員の資格を取得していない方は事前にそれを見て自身で勉強していただき養成講習にのぞんでいただく事が重要。

各加盟団体の委員長にお願いですが、自分の県連の受験者の把握をしていただき、我々も中央研修会で色々な作業を伝えられるように全国区に広めて行けるようにしていきますが、我々だけではなく、一丸となって行かないとこのような状況を打破できないと思うので、SAJ だけ、県連だけと言う事ではなく、一丸となって乗り越えていかなければならない。

養成講習は各加盟団体が主幹として、そこで研修を受けて受験者を送り出すという事なので、認識をしっかりといただき、各加盟団体でよくチェックをしてください。

その中で三蜜を防ぐために、体面的な状態が出てくるロープや三角巾で密にならないような種目のやり方を検討しています。

ここでこのような種目をやるという事は言えませんが教程の中から 8 種目を選んでやるという事をご理解いただきながら、受験者にその旨を伝えていただいて、出来るような形にして送り込んでいただければと思っているので宜しくお願い致します。

【司会、川内】

この件は 11 月までに安対のホームページにコロナの事を考えた密にならない三角巾の種目を検討しています。その中で一人で出来るような種目を考えていて、追加されると思いますので、受験者に安対のホームページを確認し勉強して下さいと皆さんに伝えていただきたいと思いますので宜しくお願い致します。

【上杉委員長】

要項にも 5 月 31 日迄を予定とし、救急員の認定証を取得しコピーなどを通して SAJ の事務局の方に送風する形をとっています。それを届けた時点で、資格の取得を認定する形になっているのでご理解をお願い致します。

(6) ボードパトロール検定について

【上杉委員長】

昨年もスノーボード委員会などとも連携して検定内容を集めている段階にも至っております。

来シーズンにスノーボードによる受験も出来る様に検討していきたいと思っています。

内容がある程度決まったり、どの様な種目をやるのか、ある程度出来ているのですが、そう言った所、SAJ と理事会を通すという場面ではないので、理事会の承認を得た段階で皆様に報告させていただき受験者を募りたいと思っています。それまでもうしばらく継続でお任せいただきたいと思います。

それにつきまして、今現状で長野県の県パトの検定の中でスノーボードの検定を実施しているという実績があります。その旨を長野県の方から報告という形でどの様になって、いま実際どの様な事をやっているのか皆さんに教えていただけますか。

【長野、新村】

長野県では 2 年前から県パトの検定をスノーボードでも受けれることを実施していますが、ジャッジ、検定バーンの関係で同じステージで検定が出来る種目と言う事でボードの方に協力してもらい種目を作りました。

まだ今、その種目が完璧だとは思っていないので、見直した方が良いものもあるかも知れません。

現在、受験された方は殆ど、正指導員を持っていたりする人が多くむしろスキーでの受験者よりも上手くアキヤ搬送も出来ています。

実際毎年、受験したいとスノーボードの需要もあり、ボーダーにしか出来ない部分もあるので、必要なことだと思います。

【上杉委員長】

他でもスノーボードの検定等やっている所等ありますか。

【兵庫、米田】

今、長野県の方からスノーボードでの検定実施の事を伺いましたがその辺りも参考にさせていただいて、詰めていけば良いのかなと思います。

いつも現場で検定をやられていますので、良い所、悪い所、またこうした方が良いのではと言う所を 2 年やられると言う事で、その辺りをまたスノーボード委員会と協議しながら詰めて行けばよいと思います。

ボードでパトロールを受験したいという人も私どもの所にもいますし、なるべく来シーズンに実施出来るように協議していただければ良いのではないかと思います。

【上杉委員長】

大体、こんな形で継続審議致しまして実施に向けて進めていますので、近いうちに報告できればとおもいます。

(7) 各加盟団体からの審議事項

【北海道、秋元】

研修会につきましては各それぞれの地区委員のスキーやボードの研修会と同じような運営方法が必要だと思います。その辺は横の連携を取り十分に配慮してやった方が良いと思います。北海道でやる場合、理論等は室内に置いて、上杉委員長の解説をよく読むように言って、今年は雪上のみで行おうとしています。

【青森、須藤】

青森はスキーやボードと同じように三蜜を避けるような形で、検温を行ったり、という形でやっていく予定です。

【北海道、秋元】

検定会において、昨年の受験生の皆さんに対してのことで、第一会場(北海道) 予定の受験生に関しては養成講習について、例えば北海道に来るときは講習会があるので、義務付けられてはいませんが参加したい人は参加して下さいとか、特例措置が取られている事とか、文書で昨年の受験生にも送り、不安、不満なく受験できるように今から対応しています。

【司会、川内】

受験者に対して安全対策部のホームページを見て種目等を再確認してほしいと言う事を各都道府県で受験者に報告してほしいと思います。

【福島、遠藤】

皆さんの言われた通り今年の with コロナと言う事で、三蜜を防いでガイドラインに乗っ取って行けば良い結果が出るのではないのでしょうか。

【山形、鈴木】

来年の事を聞きたいのですが、今年のコロナの影響と言う事があり、検定会場が昨年と同会場の福井県になりましたが、東北では3年くらい検定会をやっていません。今年、受験生が何人かいるのですが、北海道と福井では遠いので行こうか悩んでいるらしいです。来年の検定会場はどの様に考えているのでしょうか。

【富樫理事】

昨年度はコロナの影響で厳しい状態だったので今回はリベンジと言う事でこの会場になりました。来シーズンは従来のローテーションに戻して考えていくべきだと考えていますがいかがでしょうか。となると、次は東北と言う事になります。

【山形、鈴木】

その旨地元の皆の前で伝えてよろしいでしょうか。

【富樫理事】

それを含めて中央研修会で専門委員会議で検討出来ればと思っています。

【上杉委員長】

その件につきましては、専門委員会議の中で検討し正式に理事の方に報告したいと思います。

【広島、平川】

養成講習会の時間ですが前年度に比べ今年度増えているのですが、内容的に変わったとか、昨シーズン受けている人が今シーズン受けなくても受験に問題ないのか知りたいです。

【上杉委員長】

昨年より実技 22 時間、理論 6 時間と言う事で増えているのですが、これにつきましては受験資格の中で、加盟団体が実施する養成講習会が検定までに終了した終了症で証明されたものとなっていて、今年度から新しいカリキュラムになった、それはダメと言う事ではなく 3 年間なら 3 年前、昨年受けたら今年。そういった形の中で対象には

なります。今、言われた心配はしなくて結構です。

だからと言って内容に新しいことを盛り込むなどの変化はありませんので安心していただければ。

※参考(時間は昨年より変更されている。)

【兵庫、米田】

皆さんコロナの関係で申し上げますので、その辺りを気を付けてやって行ければと思っています。

先ほども出ましたボードでのパトロールの件ですが全国の委員長が集まっていますのでそういった(ボードでパトロール受験をしたい方)がいらっしゃるかどうかわかるかどうかその辺りもお伺い出来たらと思います。

【栃木、新井】

私は冬は2つのスキー場に勤務しているのですが、ハンターマウンテンではボードのパトロールが今5人くらいいます。当然のごとくボート搬送もします。

ボードパトロールは原則的に絶対2人引きをしろと。スキーの場合はやも得ず1人引きもあります。

需要はスキー場にもよりますが、モービルを多用しているパトロール、またスケーティングをしないでよい様なパトロール、コブがないスキー場でしたら一般のパトロールと同じように出来ます。ただ深雪などのあさの点検などはボードには厳しいかなと言う感じはします。

【山形、鈴木】

先日山形県の赤倉温泉スキー場より連絡いただきまして、ボードのパトロールの件はどうなっているんだという指摘を受けました。赤倉温泉スキー場は今スキーの方よりもボードの方が積極的に協力的な感じがあり、間もなく検定も始まるのではと返事をしておきました。下手をするとJSBAの方に流れてしまうと思います。

需要はかなりあると思います。

因みに、蔵王温泉の方も今のところは全員スキーですが常勤が足りなくなってきたこともありましてボードも考えているという情報もあります。だから需要はかなりあると思います。

【福島、遠藤】

私もスキーとボードを区別しようとは思わない人間なので、同じ技術で検定は可能だろうし、同じパトロールだったらスキーもボードも関係ないと思っています。

早急にボードでの検定もやっていくべきではないかとおもいます。

【北海道、後藤】

北海道では秋元先生と一緒に試験的にスキー場に行ってまだ試験には至っていませんが、ただスキーと比べた場合、私が見る限りでは例えばルスツの検定会ではかなり急斜面を引くので受験する方は一級程度では厳しいのではと思います。

勤務しているひとの話を聞くと北海道は平たんな所もあるのでそういう所をスキーのように押していくことはきびしいのと、ボードの良さもあるので、おっしゃった様にそれぞれの良さを使い分ける様にしていいただければとおもいます。

【オブザーバー、遠藤】

携わっていないので良くわかりませんが、ボードでは少し不安定なのかなとおもう。

岩手県のスキー場ボードのパトロールを見ますが皆さんの話を聞いて成程なと言った感じでした。

【アドバイザー、有元】

ボードパトロールに関して度の資格でも同じだと思うのですが、私たちSAJが発行している資格と言う事でスキー場の安心、安全であったり、信頼を使用者に提供できるような資格でないといけないと思います。

今、少し話にも出てきましたが、スキーパトロール以外のパトロールの資格はスノーボードであれば JSBA さんが発行しているわけで、そういった所と技術の差がどちらが劣っていて、どちらが長けていると言う事があると私は理想的ではないのかなと思います。

私は SAJ の組織の人間として、SAJ のボードパトロールの方が技術が上だよねというようなプログラムをきっちりして頂く事が将来的にスノーボードパトロールの地位獲得の為には重要だと思います。

先程、私も長野県連の方に所属していますが県パトの話もいくつか出てきました。やはり県パトのスノーボードの事に関してはまだまだ課題があると思います。

実際の所、私たち県の技術員の中にパトロール資格を持っているものもいるのですが、そういうメンバーの話を聞いていると「外に出すのは恥ずかしいよ。」とそういう話が出てきますので、実際の所、その辺を SAJ としてきっちりとスノーボードパトロールは SAJ だというように皆さんと共にしていただければ私も勿論協力したいと思います。

【上杉委員長】

東京、埼玉、神奈川などの人は、どの様に思っているのでしょうか。

【東京、清水】

東京はスノーボード人口も多く私の周りも JSBA の人間が多いです。

都連の中のボードの方は、どうしても競技の方に多く、パトロールの方には向いていないのが事実なので、その中でボードパトロールと言う話になってくるのですが、今の所 1 人ボードで参加してみたいという人がいましたが、やはりボードでのアキヤは無理があるのではないかと技量的に難しいと思います。

【北海道、秋本】

ボードパトロールと言うよりもボードによってパトロールをするというとらえ方がスタート。JSBA のボードパトロールはボーダーの為の安全と言う狙いがあり、うち等はどちらかと言うとボードの方にも安全に目を向けてもらえると言う事で、そこから積極的活動をするのではなく、一般のボードの方にも安全に目を向けてもらうというのが一つの狙いです。色々なパトロールの業務の中に、搬送に向いているとか、不向きだと言う事はありますが、パトロール活動は搬送だけではないので巡回だとか、コースをみて回るとか、ボーダーにとっての今の雪質はどうなのか判断してもらなど色々な、幅広く考えた場合、必要だねと言うのが前提でその部分については、ボーダー、ボード委員会の方にも話をすると、非常にきょうみを持って、自分たちの中にもその様な関心を持った者がいるからチャレンジしてみたいという専門委員の方や技術員のかたもいます。我々の仲間の中にはそういったボーダーの人が沢山いるんだと言う事で、何とか実現にむけてやっていこうということで、そうなってくると検定の資格を与えるためにどうしたら良いのかと言う事で、一番ネックがアキヤ搬送をどうするかと、スキーと同じ条件でやるのは難しい。

でも、だからと言って今、パトロールでスキーをやっている人がどうなのかという事で、長野でやっていることを参考にしながら専門委員やデモの人に集まってもらい、長野でやっている種目はどうなのかと、そういうものを実際にしてみました。資料としても残っていますが、種目など細かい部分は煮詰めなければならないけれど、大幅な変更が必要な部分については色々な方に協力してもらっているのです、実際の運営面だとか、種目だとか、ボードの資格がなものが検定してよいのかなど、細かいところはこれから詰めていき、是非一步でも二歩でも進んでいるので、進めて行くためには色々な人の協力が必要だと思いますし、それを持っている人もいますので来年中には何とか実現出来ればと。

いざという時は VTR などで、この様にやると情報を提供出来たら良いと思っています。

全日本のボード委員会の人達も非常に積極的なので、楽しみにしていただければと思います。

【長野、新村】

皆さん色々な意見があると思います。平らな所が多いとか、急斜面が多いとか。

私が見た感じでは、急斜面でボードでのアキヤ搬送は強かったです。制動もとてもききます。

どのスキー場もスノーボードパトロールをするために資格を取らせると言う訳ではないと思います。

雇用するのは事業所の方でスノーボードでパトロール資格を持っている人が必要かどうか考えるわけで、スノーボード、スキーそれぞれが活躍できる場があるわけで、それぞれの利点を生かしながらやっていったらよいと思います。

【栃木、新井】

スキー場の立場から見るといとか、働いている人の立場から見ると、ボードでパトロールが出来る資格制度が出来ることによって、手当を出しています。千円とか五百円とか。そういう部分でこれからの若い人、スキー、スノーボード問わず、そういうモチベーションで雇用することが出来るのかと、我々の立場は大きいと思います。

スノーボーダーはスキーより運動性能が低いと言う事を認識しています。でも彼らは彼らで自分たちにも出来るよって言う所をやって行きたい。実際現場のボーダーの意見です。

やはりこういう資格が出来ることによって新たな人材の確保がスキー場で出来ていく。それが将来的に人口増につながる部分でもあるので、非常に大きな部分であると思います。

【兵庫、米田】

有元さんより技術レベルの話も出ていましたが、私どものスキー場でも数年前の話になりますが、JSBA の資格検定に送り込みましたが、一発で合格出来ていましたので特にそれは大丈夫だと思います。

その辺りは調整しながら十分対応できると思います。

ただ、恵太さんがおっしゃられていた公表の問題ですが JSBA の資格を持ってもこの先がないと言う話を聞きますがパトロールには SAJ が入っている所が多いのでこれを作ることによって JSBA の資格を持っても、SAJ の資格を取得したいという人も出てくるのでは。

早期実現できれば、皆さんのスキー場の利益につながる活動が出来ると思います。

デメリットを先程からおっしゃられていますが、私もスキーもボードもしますが、一番困るのが平坦地で、平坦地での一人引きはワンフットで行くしかありませんが、数年前より田村元専門委員が DVD 出していただいて、長野県のピラタス蓼科の現状でスキーとスノーボードでコラボしていて、そういうチームワークを使えば問題ないと思います。アキヤもロープボートでも 2 人引きであれば全然問題ないと思います。

これから委員会の方で調整できれば良いのかなと思います。

【埼玉、谷島】

埼玉県ではスノーボード委員会の人達がスノーボードの技術向上をスノーボーダーに普及していますが、その中でボードパトロール検定と言う話が出てきました。

雪のある近隣の県に行き講習など行っています。

ボードパトロール検定となると、私たち安全対策委員会では見る事ができない。近隣の県にお願いして出来る様になればしていきたい。また、ボード委員会の方では儀鬱の方を正指導員、準指導員の検定をやっていますが、そういう人達にこういうパトロール検定があるんだよと PR していきたいとおもいます。

【理事、富樫】

この件は前秋元委員長、副委員長の恵太さんをはじめ色々な意見を出している中でスノーボードパトロールの新たな資格を作るのか、又は現在の、スキーパトロールの資格をボードでも受験できるというスタンスなのか、どちらでしょうか。

私は後者なのですが、皆に確認したい。

【兵庫、米田】

私は理事がおっしゃられた様に、只、使っている道具がすき一なのか、だけと言う認識でいます。

【上杉、委員長】

私も新しくボードスタイルとして確立して行くものではなく、公パトの中にボードを使ったパトロールを作ろうと言う事であったと認識していて、神奈川県でもボード委員会の方と、以前秋元さんの話を受けた後にパトロールをしている中ボードをしている人間を取り込んだり、SAJ のデモにアキヤ引かせてしたりして研究をしてきました。

今言ったように方向的には私もニュースタイルではなく、今の全日本公認スキーパトロールの中のボードとスキーと言った米田さんが言ったように道具部分でのパトロール隊員を構築していく事が大事だと思っています。

皆さんはどの様にお考えでしょう。

【栃木・新井】

今言ったボードスタイルのボードパトロールというのが理解できない。

パトロールはパトロールで一緒じゃないかと。その前程の意味合いがわかりづらい。

【アドバイザー有元】

長野県連の例を挙げると、ボードパトロールの受験した場合、県パトとして。フィールドの見直しであったり、一般のパトロールの検定斜面ではなく、ボードならこんな感じのポール設定だとか、こう言う斜面だよねと、どうしても意見として出てくる訳です。

先程、富樫先生もおっしゃっていた様に私自身もパトロール検定である以上、同じ斜面で、同じセットでやるべきだと思う。

ボードパトロールとスキーパトロールに技術差があったら SAJ として変な方向にいつているのではないかと思います。

皆さんが言うようにスキーとボード、何ら差のないパトロール資格と言うのが大前提に来るのではないかと思います。ですから、ボード特例とか一切なしでスタートさせてもらう事が

SAJ にとって良いのではないかと思います。

【北海道、秋元】

あり、スキーパトロールを何故ボードを履いてやっているんだと言われた場合はスキー場パトロールと大きくとらえても良いのかなと思う。

JSBA パトロールはあくまでもスノーボードの怪我や事故を未然に防ぐという事を大きな目当ての大前提になるので、今回の場合はっスキー場エリア全体としてのパトロールと言う事なので、ボードを履いてのパトロールと大きなとらえとしているので、その点は JSBA のパトロールとは違うと話をしながら準備を進めてきたのかなと押さえています。

【上杉委員長】

安全対策パトロール部としての立ち位置として相手がスキーヤーだろうと、スノーボーダーだろうと関係ないわけで、もともとスノースポーツを楽しむ方たちの安全に事故を防ぐといった事が大前提。その中でパトロールの育成が出てきていると思います。ですから、スノースポーツをやっている人の安全、事故防止、事故が起きた時の対応をするという事は、スノーボードを履いていようが、スキーを履いていようが同じ。

違いがある中で、検定種目を同じにするのであればスノーボードの特製を加味しながらやって行けば問題ないと

思う。その辺を皆さんにも理解していただければ、道は出来てきて、どうしたらそれが出来るのか考えていく必要があると思います。

【長野、新村】

長野県検定でボードでの検定を取り入れたという事に、ボードの方も SAJ パトロールのしかくが欲しいと言われていて、それまでパトロールの資格を取るためにスキーを練習して検定を受験していました。その方たちも得意なボードで受けられればもっと楽に取得できるでしょう。ボーダーがスキーを練習してまで受験しに来るという事はとても大変な事であり、そんなことからボードでの受験を始めることとなりました。

試験に関して種目を吟味するうえで、これだとボードには通りにくいだとか、難しいとかの意見もありましたが、実際のスキー場には人がいて岩等が出ている所があったりして、ここを通らなければならないという事になって来ます。ですから長野県ではボード用のポールセット等をしたことはありません。実際皆さんそれに合わせて普通にクリアしてきますので、同じセットで検定は十分できます。

【青森、須藤】

以前もボードより前にテレマークで受けてスキーと同じ種目でしたが合格している訳で、先程から話をしていますが、パトロールと言う域の中でそれがスキーなのか何なのか、パトロールと言う枠の中で少しづつ違うだけと言う考えでいました。

ただ、道具の違いと言う認識の違いです。

【北海道、秋元】

2つ慎重になっちたのは前、岡田本部長より SAJ として出したからには、ちょっと修正するとかが無いようにしっかり時間をかけて、これで間違いないとスタートして始めると、1シーズン、2シーズン時間をかけてボード委員会と調整しながらこの種目はどんな技術が良いだろうと試行錯誤しながら進めてきている段階なので、そろそろまとめの段階にはいっても良いのかとおもいます。

【富樫理事】

私が質問した意とは新たなボードパトロールという資格を作るには新たな規約を作らなければなりません。そして、皆さんの意見が共通しているので、新井さん、新村さんが中心となって、ボードでもパトロール資格を受験できる、そういう体制を早急に整えて貰いたいと思います。

注意しなければならないのは、前、本部長が指摘された様に、やってみたが来年は止めるとか、そうすると SAJ の立場がないので、そうならないように、是非しっかり検討して、しかも早急に実現できるようにお願いしたいと思います。

【司会、川内】

新井さん、新村さん、早急をお願い致します。

【栃木、新井】

相談しながら、早急に作っていきたいと思います。

8)その他

【司会、川内】

有元さんにかありますか。今、流行りのバックカントリーとかで何かありますか。

例えば、コース外滑走とかの意見とかありますか。

【アドバイザー、有元】

パトロールのみなさんの中で共通認識が出来ていれば良いと思います。

私も富良野スキー場でパトロールのメンバーとしてシーズン中動いていますが、共通認識が取れていれば良いんじゃないかと思います。

ですから、皆さんはご存じだと思いますが、全国安全対策協議会と言う所がスキーに関するルールを板東先生とそれをきっちり守っていれば管理者側として、管理者側の直属の安全を司っているパトロールとして、リスク負担が軽減されるわけです。全パトロールの人達が専門委員、技術員も勿論そうなのですが、各隊員であったり、各スキー場の方たちが理解することによってリスクが軽減されます。

ただ、バックカントリーは、スキー場、管理区域外になります。区域外の話になるので実質 SAJ がスキーパトロールをする上でバックカントリーは管理をする必要がない所になります。

その部分を勘違いしない様にさせていただく事により、オペレーション自体が楽になります。

皆さんの中に知らない人がいれば学んでいってもらえば良いし、知っている方は追及していただければバックカントリーに関しての事も出てくると思います。

今の教程、安全編の中にバックカントリーの部分も沢山入っていますが、あくまでも厳冬期のさんがくの安全を管理する上で、基本的に知っておかなければならいと言う所が入っている訳です。

あれを読んだからと言ってバックカントリーが安全に出来るかと言えば全く出来ませんので、バックカントリーと私たちが安全を管理している部分は切り離して考えていく方が良いとおもう。

他

【福島、遠藤】

全国の委員長の皆様に伺いたいのですが、

パトロールの大会がなくなって数年たつのですが、私はパトロールの大会は復活させた方が良いのではないかと考えているのですが。

大会からの高い技術のフィードバックと言うものもあるし、その中で新技術も生まれると思います。

全国の委員長がどうお考えなのかお聞きたいです。

【宮城、三神】

競技かい復活は賛成で、そういう方向であれば良いと思いますが、やはり参加者人数の問題が大きいかなと色々さんさして行き復活しても良いのではないかと思います。

競技会がなくなった理由は、年々参加者が減っていったこと。それから収支、大きなマイナス事業になります。

もし、復活するのであれば、その辺、マイナスにならない様な手立てが必要になると思います。

【富樫理事】

32 回で終了となり、私も是非復活したいと思っています。只、いま芹澤さんがおっしゃった様に予算的にかなり厳しい中で、裏技的に考えているのが、例えばパトロール研修会と言うのは SAJ 直轄の事業でまだ 2 つ残しています。研修会の実技研修として行くと全員が研修会参加者なので予算とか、経費という事が無いので、しかも研修会参加者であり自費参加なのでそれなら実現できそうな気がするなと思います。

最初はなかなか周知が行き届かないので、参加者は少ないかも知れませんが、ヒートアップしてかつての大会の盛り上がりを見せられるのではないかと思います。

これが、実現可能性の高い方法として考えています。

【上杉委員長】

競技会がなくなってしまった経緯もよく聞いています。

理事が言われた様な事もありますし、あとは皆さんがスポンサーを集めて SAJ の経費を軽くして行う事も一つの手で、技術戦もそうしてスポンサーを集めて行われています。

その為にも、スポンサーにとって、宣伝効果のある大会にしなければなりません。

その辺も踏まえて、皆さんのスポンサー集めも少しずつやって行き、何でもかんでもスポンサーを集めるわけではありませんがちゃんとしたところとスポンサー契約して大会も運営されるという所も理事の意志に続いて考えられることです。

以前、総会の時、アキヤボートレースをエキシビジョンで行いました。

あのような流れで理事の言われた様に進んでいくと思いますし、スポンサーをつけてバナーも着け、大々的に全日本の技術選のように発展し出来ていくと思います。復活、再開できる方向にもって行きたいと考えています。

色々、試行錯誤したいと思います。

【福島、遠藤】

是非そのような方向に向かう事を願っています。

他

【東京、酒井】

養成講習で理論を E ラーニングでやるには、効果と言うのはどの様に測定していこうとされているのか、皆さんの状況をお聞かせ願いたい。

【上杉委員長】

実際に E ラーニングをしてどうか測定を行う為には、その場(画面)に問題集を出してやる方法で理解力を測定する。

また、問題を書いてレポートを提出してもらい、はんだんして行くという形があると思います。

それ以外にも例えば、スキーマの養成講習を行うのにそれぞれの加盟団体に試行錯誤して考えている状態ですが、これが、来年、再来年、続くようであれば考えていかなければならないと思いますが、今シーズンで終わるようであれば、レポート提出が一番ベターなのかなと思います。

【東京、鈴木】

他の県で、E ラーニングを作っている県連さんはどの位いますか。

【北海道、秋元】

北海道は今シーズンで終わると考えてまだ制作していません。

【東京、清水】

今年度は対面と言う事でしょうか。

【北海道、秋元】

コロナの三蜜を避けるという事で理論は間隔をとって、他の講習会と一緒にやる方向。

また、中央研修会等で専門委員の方である程度ガイドラインを示していただけるのではないかと考えているので、それを元に対応していきたいと思っています。

【東京、清水】

どうしても E ラーニングのコンテンツを作るとなると時間がかかるので、それを待ってられないと東京都は動き出しています。

コンテンツを作るにあたり、教本をさらっていけば良い部分は大丈夫なのですが、委員長もおっしゃっていましたが、効果測定をレポートにするのか、もしくは選択肢問題にするのかでアイデアが出てくるのですが、それをどうま

とめていくのか、問題が山積しているなどと言うのが神奈川と東京で考えている所で、もしそういうアイデアがあったら教えていただきたいと思います。

【長野、新村】

長野県ではパトロールの方は対面でやって行くつもりです。

養成講習を受講する人が少ない事もあって、十分なソーシャルディスタンスもとれるので対面でやって行くのですが、準指導員、正指導員の方の講習の方で安全編の講習の部分を安対部で E ラーニングを作らせてもらっています。その部分は有元さんが詳しいのでお願いします。

【アドバイザー、有元】

県連の方の養成講習会のパワーポイント等 E ラーニング用の制作し終わりました、安対部としてはズームを通じてパワーポイントを録画し、それをグーグルの方にアップし、最終的に受験する人のみが閲覧できるという形になっています。

SAJ の様なおおきな組織が E ラーニング用動画を作っていただいてそれを利用するというのが理想的だと思います。

なぜかと言うと、作成者の肖像権であるとか、もともとあるデータの著作権等が作ったものの殆どにかかってきます。そう言った所を網羅することは非常に難しい。。

実際に長野県では受験する人だけが閲覧できるような形をとって、進んでいく感じになります。安対部以外のそれぞれの部署が、それぞれ動画を制作してアップする流れになっています。

実際の所、安対部はぜんぶ終わっていますが、競技部、教育部の方は 5 日の日に私たちも含め集まり撮影を行ったり、修正したりする予定になっています。

他

【山形、鈴木】

専門委員会議で話そうと思っていたのですが。

山形県で、本年度の研修会があるという事で準備している所ではありますが、先日貰った SAJ の方からの通知で研修会の受講生は合宿方式ではなく自身で宿泊施設を予約するように通達がありましたが、研修会を行う所の役員の見積もりと言う所で¥9,000ーでお願いしています。ところがお願いするときに、今回初めての所だったので、研修会と言うのはこんな感じでこう言うものと言う所から始めて合宿式でこれくらいの受講生がいるので、それを前提として料金をこれくらいに抑えてほしいと、お願いしたわけです。

その通達があって、まだ先方には伝えていないのですが、約束と違うとか言われた場合はどうしたら良いのか分かりません。

今年の 3 月の研修会に別のホテルに予約してコロナの関係でキャンセルになっています。

先シーズンコロナの関係により研修会は中止という SAJ からの通達を印刷し持っていき、各来賓方にも連絡し謝罪し断りはしたのですが、5 月に再度、今回の研修会を予約するときに、社長自らが授業が継続できるか分からないので、まだ予約できないと言う答えをもらいました。

来年の事は分からないと言う中で来年も是非お願いしたいとお願いして、もし来年出来るようだったらお願いしたいと伝えてきました。れんらく待ちにしていましてあまりにも連絡が無いという事で、山形の本部長と相談して今回のオークヒルにお願いするという経緯になりました。

実際、私どもが研修会を運営する上で非常にやりづらい状態です。

もし、受験生が少なく役員の方が多様な状態ではたして¥9,000ーで泊めてもらえるのか分からないので、その辺来てもらう人が足りない分を出してもらおうとか、そこまで考えているのですが、現状的には非常事態が続いている様な状態ですので、その辺の状態をお伝えしながら、皆さん何か良い方法があれば受験生を募集するにも、この様な状況なので、沢山来てくれともお願い出来ないし、開けたところ勝負で受講生がどれだけ来るのか心配なので、そのような所皆さんからご意見いただいたり、情報をいただいたりしていきたいと思いますので宜しくお願いします。

もし、予算をオーバーした場合は。

【SAJ 芹澤】

予算が見積もりを出してもらった金額で授業計画通り進んでいるので予算が SAJ 全体の理事会で承認されているので、それを上回らない様にしなければならないのですが、もしかしたら事業全体の予算のなかに入る範囲であれば何とかなるかも知れませんが今はそれも分かりません。

特に予算が SAJ の 3 本部のヒアリングを何度か経て切り詰める様になって来ています。

昨年よりもタイトな予算組となっていますので、いまは何とも言えません。申し訳ありません。

【富樫理事】

今シーズンの予算組はかなり厳しいと言う事で役員の数も減らしたり、委員長と努力した役員配置を考えているのですが、恵太さんが言われた通りあくまでも経費の見積もりを出してもらいました。しかしその下約束として合宿方式だよと言った場合、確かに詐欺だと言われる可能性があります。ただ蓋を開けてみないと何院来るか分からない。また受講生がそのホテルに泊まるかも分からない。確かに開催する方としては苦しい所だと思います。ただ、例えば山形県内の研修参加者は宿舎に泊まらない可能性があります。日帰りで出来るでしょう。その辺を工夫して、県内の受講生を集めて参加料をしっかりと取って、経費を賄うと言うやり方もありだと思いますが、どうでしょう。

【山形、鈴木】

山形の方の研修会は 12 月に予定してあります。まず研修を受ける方は 12 月の研修を受けてくれていますので、一応声がけしてみますが 3 月と言うと忙しいスキー場もあれば、ちょこっと来てくれる人もいますが、今から集める上で 12 月の方に行ってしまうので頑張ってみますが厳しいと思います。

【富樫理事】

今日は全国の委員長さんがいますので是非アピールを。

【山形、鈴木】

蔵王では、理論会場はなるべくしない様に考えています。今、考えているのは中央ゲレンデの方にサンゴロウ小屋と言う小屋がありまして、そこで全国でも 2 か所しかないうちの一つであるビーコンのトレーニングシステムがあり、このシステムを使用させてもらい勉強会をやって、カーボンアキヤボートをはじめ、いろいろなアキヤボートを引いてもらえるような状況を作ろうと思っています。蔵王全山をみんなで滑ろうということも出来ると思いますので、全国の委員長の皆さん、3 月の蔵王に是非来ていただけたらと思います。

【富樫理事】

今言われた PR のポイントを中央研修会までにまとめていただき安対のホームページで PR していきたいと思いますので、資料の取りまとめをお願いします。

【山形、鈴木】

分かりました。

もう一つ確認ですが、東日本の前に総会と言う文字がありますが、役員の人数が出ていないのですが、総会の役員はいないのでしょうか。

【上杉委員長】

研修会の役員で 6 人と言う配置になっていますが、それが総会を含めた人数です。ご理解ください。

【山形、鈴木】

では、総会の内容と言うのは併用と言うか、研修会と一緒に考えてよろしいでしょうか。

【上杉委員長】

それは、主任にお任せします。

【富樫理事】

総会なので外部講師 2 名分の予算はとってあります。

その分は他の研修会より予算的に優遇されているかと思います。

【山形、鈴木】

ありがとうございます。

只、理論がない以上外部講師を迷っています。

もし、理事の方から推薦する講師がいましたら後で教えてください。

【富樫理事】

了解です。また、中央研修会で検討しましょう。

【山形、鈴木】

分かりました。

6. 報告事項

(1) 各加盟団体報告【事前提出資料】【配布資料 01】

【北海道・後藤】

検定自粛中だった為、公パト受験者は 17 名の予定。ルスツで行われていれば、26 人の検定者がある予定だった。北海道開催の技術選、Jr.の全日本の大会がルスツリゾートで行われ、そこには必ず秋本、影山専門委員をチーフに委員がついて大会のサポートにあたる事を主観において安全対策の者も一緒に行動するということを心掛けている。

【青森・須藤】

事業報告は資料参照。今シーズンは雪不足で始まり、コロナで終わった。

パトロール受験者は県パトが 6 名。公パトが 5 名予定通り検定が出来ていれば 5 名の新しい仲間が出来たのですが残念ながら中止ということで今シーズン受験する予定になっています。

【宮城県・三神】

事業は資料通り。昨年報告がなかったので一昨年先シーズンの報告。指導者研修会の中で安全対策の中身を深めていただくということで、実際に研修会で怪我をした際の処置の仕方、技術員の先生と共に講習をして安全対策の関心を深めてもらった。それによって今シーズンのパトロールの受験者が増えつつある。

【秋田・高橋】

昨年度の研修会は秋田、八幡平スキー場で行った。昨年は雪不足でしたが八幡平は標高が高いこともあり豪雪

に見舞われて良い検定が行われた。今シーズンは田沢湖スキー場にで12/28～27で行われる。

【山形・鈴木】

毎年同じような形で評価している。2月まではインバウンドが結構入っていたが、3月になりパタッといなくなり3月からは翻訳機がいなくなった。

【福島県・遠藤】

事業は資料の通り。近年技術員の先生方や指導員の先生方の講習中にケガが多いということで、そちらの対処を講習会での講義のじかんを多くいただいてパトロールの活動を指導者の方に周知して頂いて一人でも多くのパトロール受験者が増えるように努力しています。

【茨城県・高瀬】

コロナにより活動中止ということでした。今シーズン 18 の国体の大会開催に向けてコロナ対策の基本方針が出たので参考にし、これに元図いて感染を防ぐ。

【栃木・新井】

例年通りの行事を行いました。公パトの受験生は皆無だったので行いませんでした。今年は栃木始まって以来 5 人～6 人の受験生が出そうです。

【群馬・中澤】

小浦儀スキー場にて加盟団体の研修会を行いました。救急法では昨年、沼田広域消防署から 2 名の講師を招き現場の経験を生かした救急法をお願いしました。

雪上研修ではアキヤの練習を行いました。宝台樹スキー場の中島隊長に現地にて安全対策、過去の事故現場等の説明。昨年は雪が少なかったので少雪対策、この辺りの勉強をしました。

群馬県は本年度より森山さんから中沢に委員長が変更になりましたので、よろしくお願い致します。

【群馬・中沢】

宝台樹スキー場にて加盟団体の研修会を行いました。

救急法では昨年、沼田消防署より 2 名の講師に来てもらい、現場の経験を生かした救急法を行いました。

雪上研修ではアキヤ搬送の練習を行いました。宝台樹スキー場の隊長より、現地での安全対策、過去の事故現場等の説明をしてもらいました。昨年は雪が少なかったので少雪対策などの勉強をしました。

群馬県は本年度より森山さんから中沢に委員長が変更となりましたので宜しくお願い致します。

【埼玉・島】

行事は報告書通りになります。

受験者の養成講習がメインになり昨年は受験者 3 名を予定し行っていましたが、コロナにより受験できず。

公パトの研修会参加者の取りまとめ、各教育部へのパトロールの派遣などを行いました。

【東京・清水・酒井】

本年度、三井さんより清水さんに委員長が受け継がれました。

行事は報告書通りで公認パトロール受験生が 6 人の予定でした。

本年度、その 6 人が受験してくれることを願っています。研修会は 20 名位でした。

加盟団体安心講習会を全クラブに向けて行っている。

来年度よりこの講習を受けないと各行事が出来ないという形式をとって安全啓蒙を全クラブに広げていきます。

あと、都連の教育と行事への派遣をおこないました。

【神奈川・上杉】

行事は報告書通りで、通常通りの行事を行いました。中でも検定会が中止になりましたが、受験生がいなかったため、今シーズンはしっかりと受験生を確保できる体制をグリーンシーズンから行っていて、何人か受験生が増えて来ています。

昨年は通常通りの事業でしたが、本年度より東京都連とコラボレーションを組み南関ブロックという形で養成講習と研修会を合同で開きその効果によって人数の確保と予算の軽減、削減という形をとります。

研修会等で受験生や検定生の怪我人が見受けられる。私たち安全対策部はそういった啓蒙を講師に向けて発信し、事故を防ぐような形をとっている様な形です。

【山梨・立木】

山梨の本部をしている望月です。代理での参加です。

行事は報告書の通りです。

コロナ対策について書かれていますがシーズン終わりの事となります。

受験生は一人ですがもう一度受けると聞いています。

【長野・新村】

雪不足から始まりコロナで悩まされたシーズンでした。

その中で県パトの方は予定通りにこなせましたが、受験生は減っていて少なかったです。

公パトの方は受験者が0人と残念でしたが実際の検定自体も中止と言う事でした。

加盟団体主幹の研修会は県パトの研修会と同日程で同じ内容で行いました。JPTEC ファーストレスポnderコースをJPTEC スタッフにより座学～実技まで講習をしてもいました。

【新潟・川内】

事業内容は報告書通り。年々受験者が減っている。県内にスキー場が沢山あるので、出来るだけ公パトに受験者を増やすように今後とも努力していきたいと思っています。

【富山・奥田】

事業内容は報告書通り。公パト受験者が新潟と同じく少なくなっているの、増やすように努力していきたい。

昨年受験するはずだった2人が今シーズン受けるとのこと。どのスキー場に聞いてもパトロール、社員、アルバイトその他もろもろ好き上で働く人が少なくなっている。スキー場にお願いして、従業員に最低日赤の救急員は取ってもらおうと考えている。

【石川・吉本】

事業報告は記載されている通り。昨シーズン西日本研修会を2月22日～23日で開催しました。雪不足とコロナ等で参加しにくい環境の中、多くの方に参加していただき感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【愛知・福岡】

事業報告は記載されている通り。

10月の日赤救急員講習会は愛知の方でなかなかスケジュールが合わないため、同じブロックである福井県に行き、宿泊を伴って行ってきました。養成講習はブロックで一緒に行っているの、加盟団体では行ったことはありません。研修会は西日本会場が石川県と言う事もあり、皆に声をかけて石川の方で数名参加しました。

受験者の養成講習は、愛知には小さなスキー場しかないため、他県に出かけることが多いです。

他の県の技術員にお願いして、その県の受験者と一緒に練習することができた。

今年は現在、昨年受験できなかった3名(5名中)新たに1名増え4人の予定。今シーズンも色々なところにお世話になるとは思います。よろしくお願いします。

【岐阜・内方】

事業報告は報告書通り

昨シーズンは4名受けるはずでしたが今シーズンも曾於4名がうけるとおもいます。

パト隊長会議、SAJ 公認パトロール研修会。県パトの研修会を同時開催いたしました。

今年度も平湯温泉でパトロール研修会を行う予定。

【滋賀県・長和】

【スキーパトロール協議会・遠藤】

日本スキーパトロール協議会の中の目的には全日本スキー連盟の安全対策事業に理解、協力をして安全事故防止に寄与することなどをうたって、全日本の行事に参加していくと言う事で活動している。毎年、公パト検定会で会場に来てSAJのご配慮により合格者へのパトロール協議会への加入の呼びかけに協力いただいています。この場をお借りして御礼申し上げます。

パトロール協議会では夏場に総会を行っています。全国各地で行っており、昨年は初めて北海道で開催しました。本年はコロナにより書面総会となりました。

来年は50回という節目なので青森県浅虫温泉にて7月ごろに行う予定。

全国の安全対策の委員長が集まっているので是非、会員の方に声がけして沢山の人が参加してもらいたいと思っています。

【アドバイザー・有元】

国際スキー連盟と直接話す機会があり COVID19 の対策であったり、そういったものに関して、人を集めて講習会であったり大会であるとかそういった物にはつねづね注意するようにという話がありました。その様なこともFISの関係でしています。私の方から色々な情報がありましたら富樫先生を通じて話をしていきたいと思います。

●活動報告について質問

【青森、須藤】

質問というよりかきあいて思ったことですが、来年度の検定会に青森からも5人うけようとしたのですが、コロナで受けることができなかった。次回の検定会に全員受けるのかと思っていたところ、やはりコロナの関係で次で受けようと思っていた人の2人が受けることが出来ない。職場等のりかいは受けられない等の事があったので、全国の人達はどうなのか知りたいので、聞こうと思いました。その割に受ける人が多い話をしてくれたので、なかなかこれから厳しくなっていくと思われる中で受けようと思っている人が沢山いて安心しました。

(2)2020 安全対策部事業報告【2019-2020 教育本部報告書】

【北海道、秋元】

昨年7月にジャパン オリンピックススポーツスクエアに集まって、委員長会議と各加盟団体の教育本部長と合同で行ったと言う事からスタート。その時眼下に見えた国立競技場をみて来年はオリンピックなんだと言うご時世だったんですけども。

3月の検定会と東日本直轄の研修会は直前で中止と言う事で。

特に検定会については、役員の集合日に中止すると言う事で、バタバタして受験生に連絡をするというか、北海道に来る青森の人とかが前泊していたとか。そういう状況でしたけれども何とか連絡がついて受験生の方々には直前だったけれども理解していただいて来年以降また頑張りましょうと言う事で連絡しました。と言う事で今年の会場を引き継いで研修は蔵王の方で行われる。何とか事業を終えることが出来ました。

昨年より中央研修会が雪があるところと言う事でサッポロ国際の方で行うことが出来て、役員ともども張り切って来ましたが一年間事業を進めてきました。本年度の役員の方の改選は大体同じメンバーで来年に引き継いで行く。いろいろな面で各事業の会場やお手伝いして下さる人とか、いろいろな所で協力していただきながらやっていくしか無いのかと思っています。

(3)その他

7. 閉会宣言 秋元 洋一前委員長

【北海道、秋元】

いつもなら皆さんの顔を見ながら直接話を聞けるのですが、画面上の顔でしかお会いできないと非常に懐かしくもあります。淋しい思いもあります。

今年、先日亡くなられた岡田本部長の方から、役員はもう一年あるけれど安全対策の方も新体制で臨みたいと言う事で、委員長と副委員長が首ではなく解任。交代しろと言う事で新しい体制になりました。私は委員長として4期(8年間)。その前は副委員長3期(6年間)と言う事で安全対策部の方で仕事させていただきましたけれど、その間、東北全県とか群馬、岐阜、長野、と多くのスキー場にお邪魔して事業をさせていただきました。地元の関係者、スキー場関係者のおかげで全部無事事業を終えることが出来たことが非常に懐かしくもあり、感謝の思いでいっぱいです。

気が付けば40代だったのが良い年になってきて、そろそろ新しいか座が吹く時かと思います。今シーズンはコロナ渦の中でいろいろ今までと違ったものがあるけれど、スノースポーツの安全とさらなる発展と多くのパトロールを目指したいという人の為にしっかり出来るよう、皆様とこれからも協力しあいながらやっていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。

本日も、この様な形でしたが、長時間お疲れさまでした。今後、顔を合わせる機会があると思うので情報交換していただけたらと思います。本当にご苦労様でした。